

長崎県子どもの生活に関する実態調査の概要【長崎市】

1. 調査の趣旨と目的

長崎県は、県内の子どもの生活状況と現行の支援制度の課題等を把握し、より効果的に子どもの貧困対策等を推進するため、「長崎県子どもの生活に関する実態調査」を実施しました。今回の調査は、子どもの生活状況や意識などを把握するとともに、親の所得や世帯状況などが、子どもの生活状況等にどう影響するかなど、親子間の関連について調査したものです。

2. アンケート調査の概要

(1) 調査対象

小値賀町を除く県内20市町から抽出した小中学校に通う小学5年生及び中学2年生の子どもとその保護者

(2) 調査期間

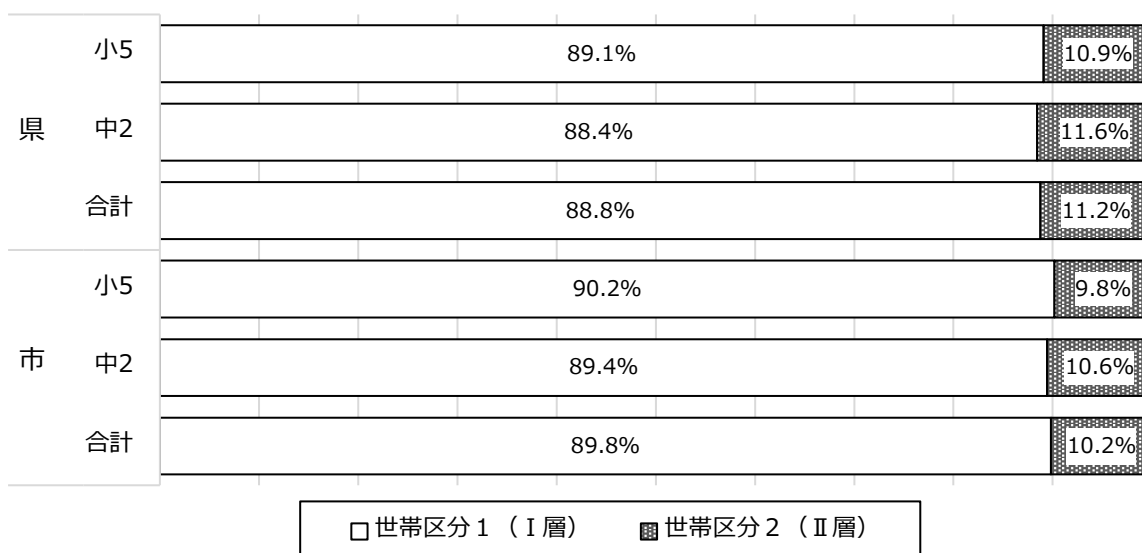
平成30年11月22日～12月5日（14日間）

(3) 配布数と有効回収数

対 象	長崎県全体			長崎市		
	配布数	有効回収数	回収率	配布数	有効回収数	回収率
小学5年生の保護者	4,665	4,496	96.4%	464	452	97.4%
小学5年生	4,665	4,504	96.5%	464	453	97.6%
中学2年生の保護者	4,664	4,443	95.3%	446	426	95.5%
中学2年生	4,664	4,447	95.3%	446	426	95.5%
合 計	18,658	17,890	95.9%	1,820	1,757	96.5%

(4) 所得階層による世帯数と割合

世帯の呼称（等価可処分所得の範囲）	長崎県全体		長崎市		
	世帯数	割合	世帯数	割合	
世帯区分1（97.2万円以上）（Ⅰ層）	6,802	88.8%	706	89.8%	
	小学5年生	3,448	—	367	—
	中学2年生	3,354	—	339	—
世帯区分2（97.2万円未満）（Ⅱ層）	860	11.2%	80	10.2%	
	小学5年生	422	—	40	—
	中学2年生	438	—	40	—
小計	7,662	100.0%	786	100.0%	
不明	1,277	—	92	—	
合計	8,939	—	878	—	

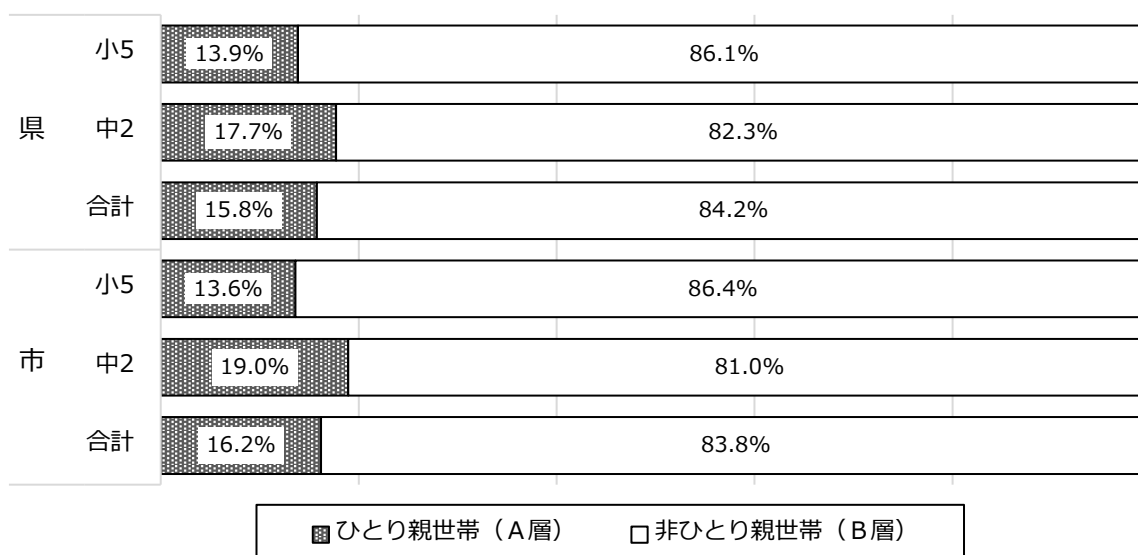


【所得階層による世帯の定義について】

- ① 世帯の人数と世帯全員の収入を合わせた手取額（収入から税や保険料を支払った後の額／2017年の1年間）に関する設問により、当該世帯の等価可処分所得（世帯年収を世帯人員の平方根で除した額）を算定します。
- ② 上記①で算定した等価可処分所得が、等価可処分所得の中央値の半分の値である97.2万円以上となる世帯の呼称を「世帯区分1（Ⅰ層）」とします。等価可処分所得が97.2万円未満となる世帯の呼称を「世帯区分2（Ⅱ層）」とします。
- ③ なお、ここで求めた所得階層区分の割合と、厚生労働省発表の子どもの貧困率とは、調査対象、世帯所得の把握方法等が異なるため、正確に比較できません。（平成28年調査による国の貧困線122万円、貧困率13.9%）
- ④ 「不明」は分析に必要な該当設問に無回答の世帯であり、割合は無回答を除いて算出しています。

(5) 家族形態による世帯数と割合

世帯の呼称		長崎県全体		長崎市	
		世帯数	割合	世帯数	割合
ひとり親世帯 (A層)		1,385	15.8%	141	16.2%
	小学5年生	615	—	61	—
	中学2年生	770	—	80	—
非ひとり親世帯 (B層)		7,398	84.2%	729	83.8%
	小学5年生	3,824	—	387	—
	中学2年生	3,574	—	342	—
小計		8,783	100.0%	870	100.0%
不明		156	—	8	—
合計		8,939	—	878	—

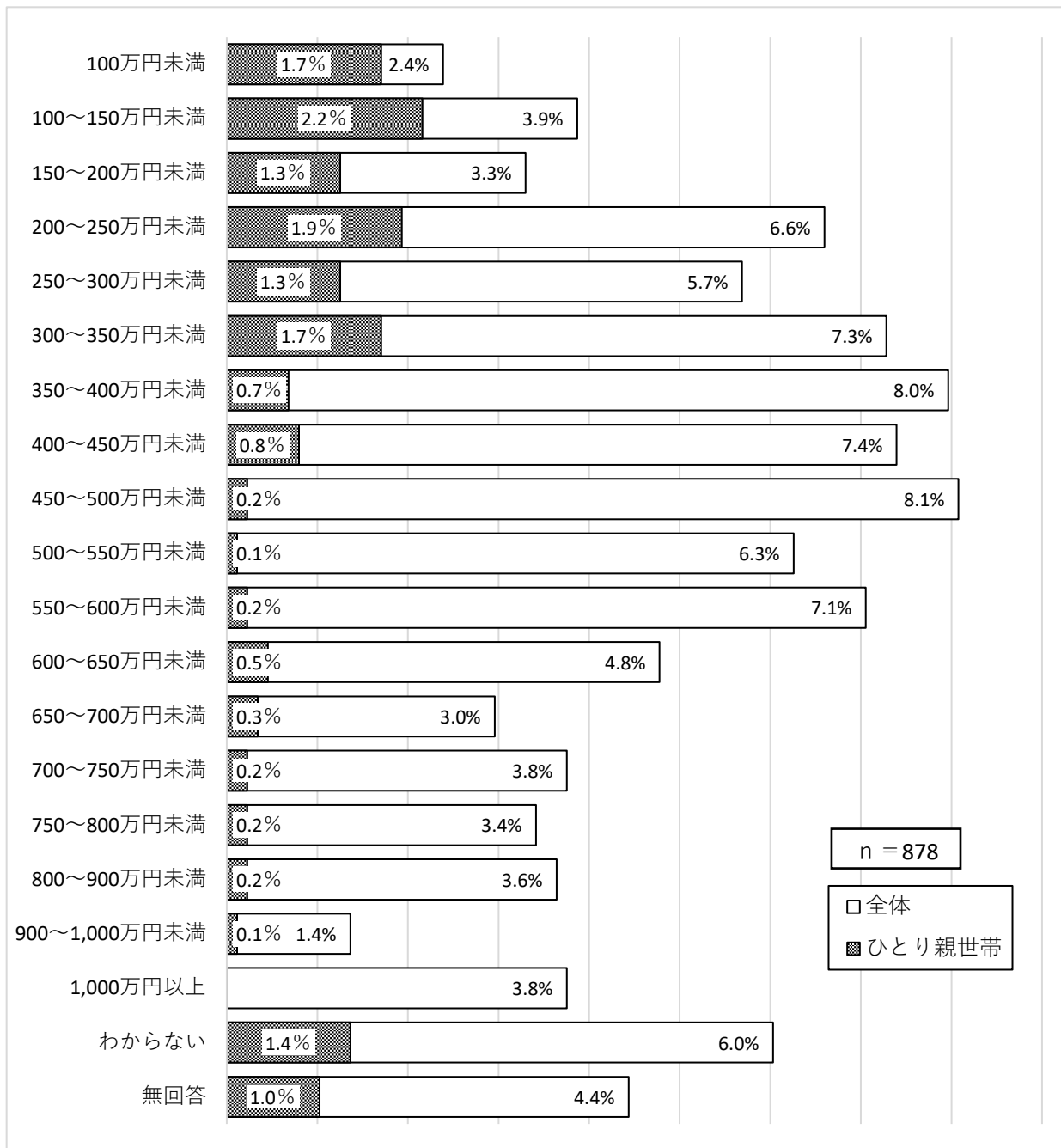


【家族形態による世帯の定義について】

- ① 世帯人員の設問により、子どもと同居している親が母親または父親の一方だけと判断できる世帯の呼称を「ひとり親世帯(A層)」とします。
- ② 同様の判断により、子どもと両親が同居している世帯の呼称を「非ひとり親世帯(B層)」とします。
- ③ 「不明」は分析に必要な該当設問に無回答の世帯であり、割合は無回答を除いて算出しています。

(6) 世帯収入

本調査における世帯年収（2017年の1年間の世帯全員の手取り収入の合計）は平均で長崎県全体では419.9万円、長崎市では444.6万円であり、長崎市の分布は次のとおりです。



3. アンケート調査の結果から見える主な傾向

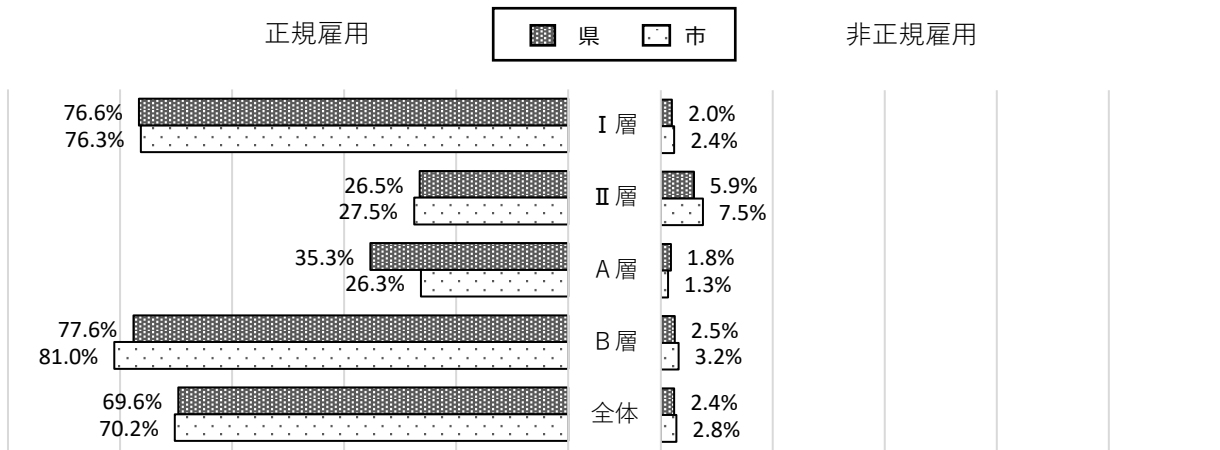
今回の調査結果では、保護者の収入や家族形態が、子どもの生活環境や教育環境、社会環境、さらに心身に対して影響を与えていることが明らかとなり、その主な傾向は以下のとおりです。

※主な傾向の回答割合（％）は、長崎県の報告の際に、各設問において小5と中2のうち主に高い数値が記載されているため、同じ学年の数値を記載し比較しています。

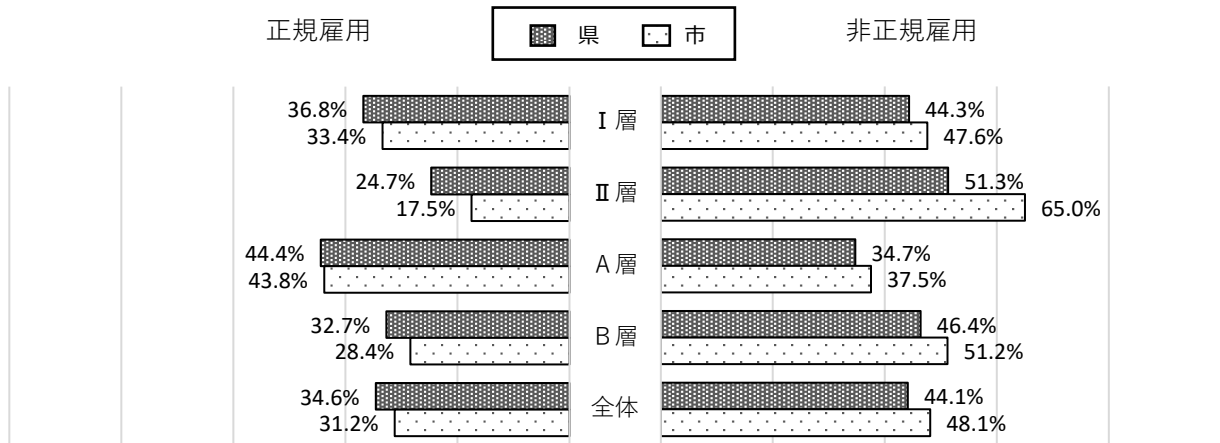
(1) 経済状況

①所得階層や家族形態により保護者の就業形態や学歴に差が見られる

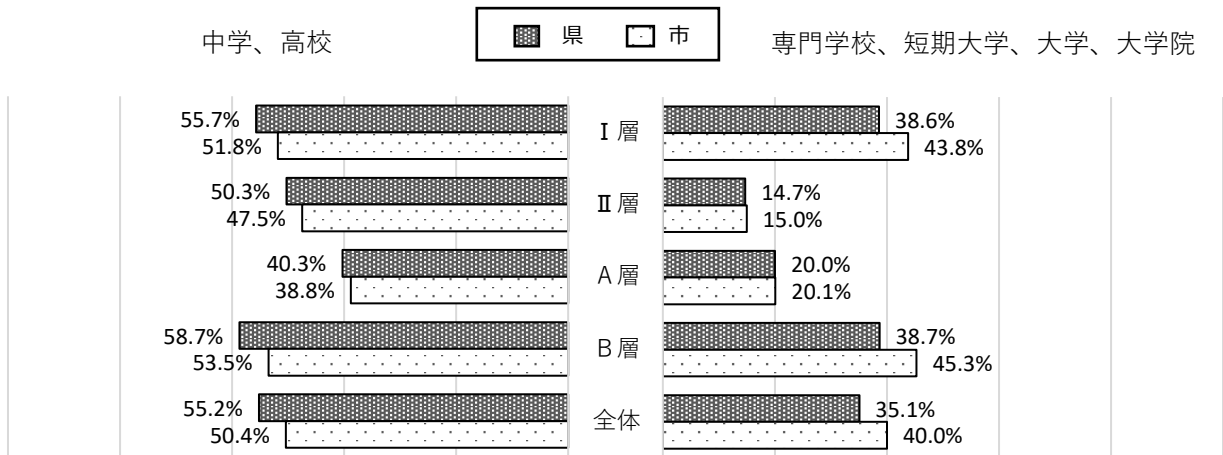
・父の就業形態（回答者：中2保護者）



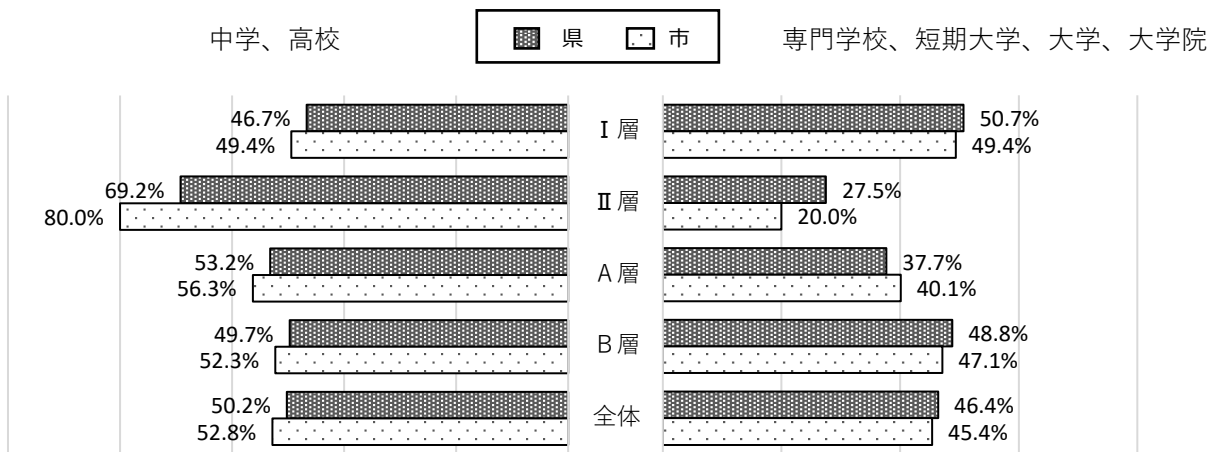
・母の就業形態（回答者：中2保護者）



・父の学歴（回答者：中2保護者）

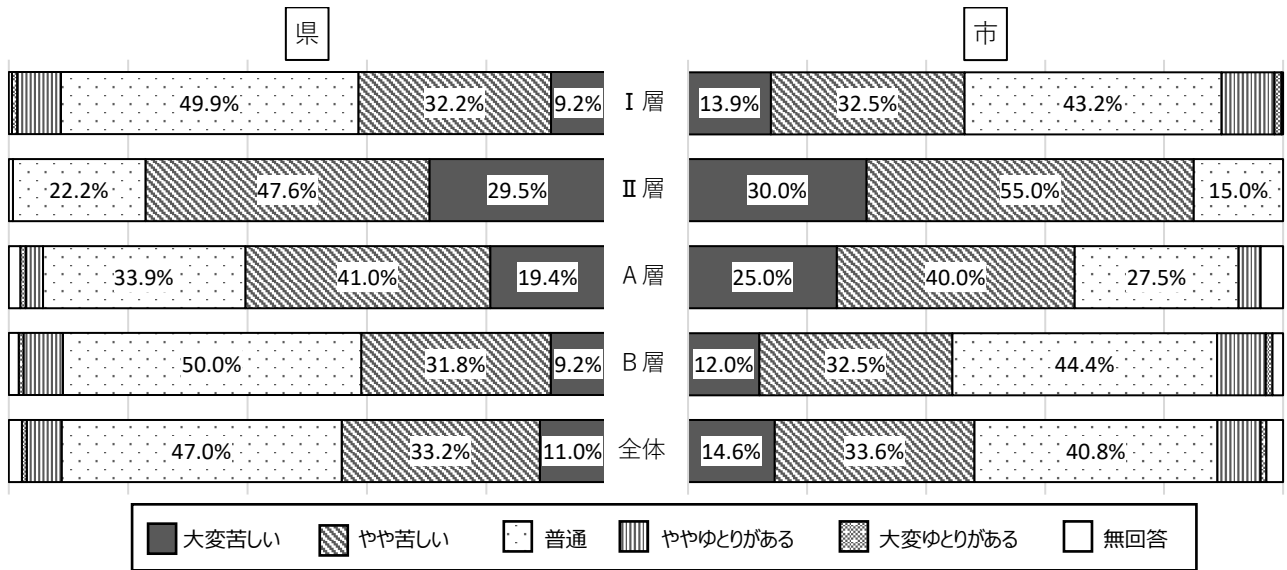


・母の学歴（回答者：中2保護者）

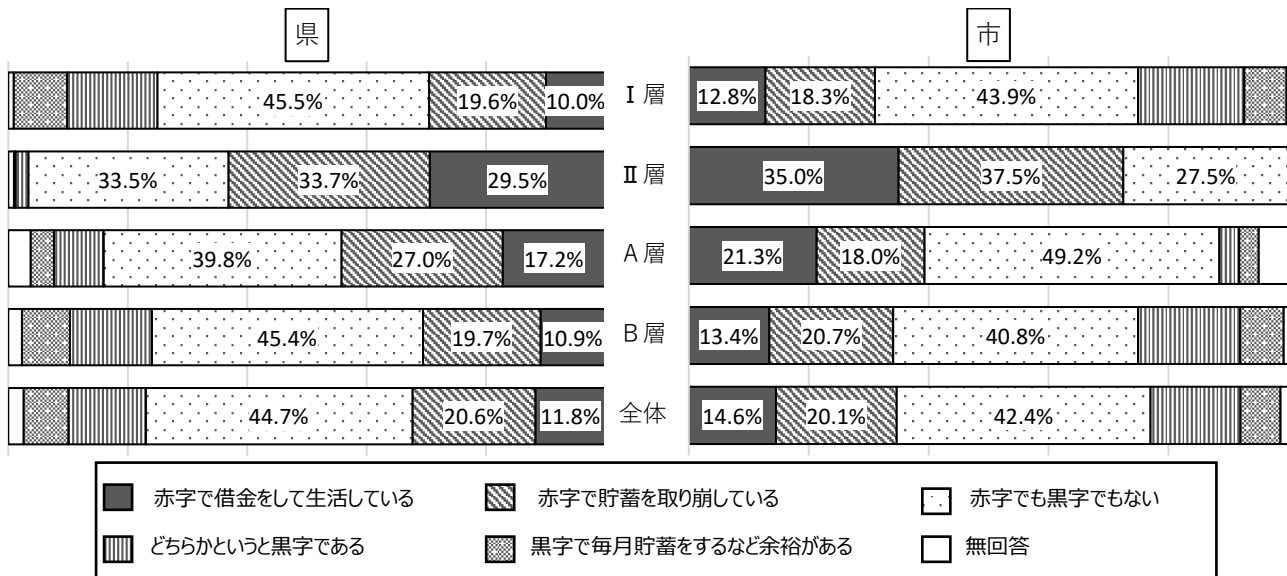


②所得階層や家族形態により家計の状況に差が見られる

- 現在の暮らしについて、「大変苦しい」及び「やや苦しい」と感じている割合は、全体では県で44.2%、市で48.2%だが、Ⅱ層では県で77.1%、市で85.0%、A層では県で60.4%、市で65.0%と、割合に差が生じている。（回答者：中2保護者）

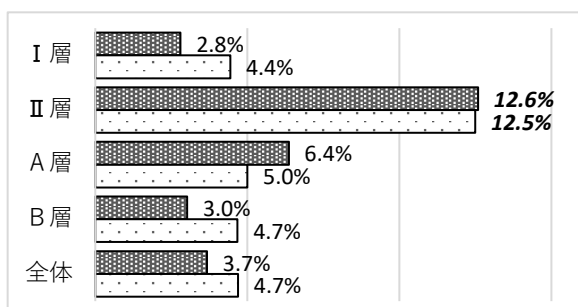


- 通常の家計の状況について、「赤字で借金をして生活している」及び「赤字で貯蓄を取り崩している」割合は、全体では県で32.4%、市で34.7%だが、Ⅱ層では県で63.2%、市で72.5%、A層では県で44.2%、市で39.3%と、割合に差が生じている。（回答者：小5保護者）

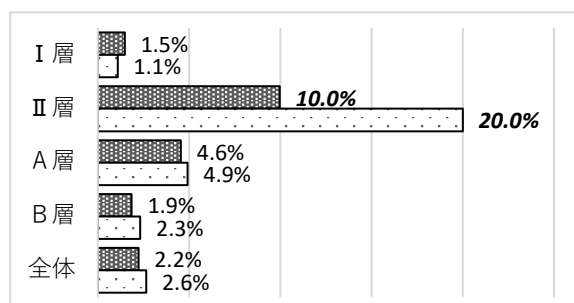


③所得階層や家族形態により「経済的理由による衣食住及び医療に影響が出た経験」がある割合に差が見られる（直近1年間における経験）

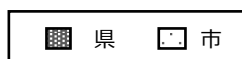
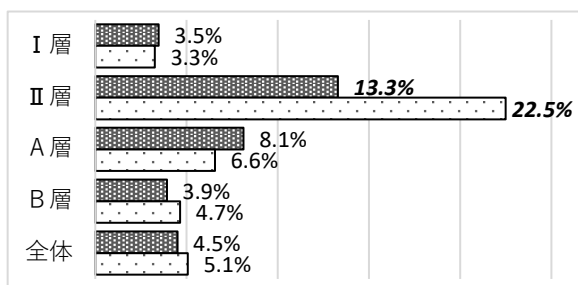
・必要な食料品が買えなかった
（回答者：中2保護者）



・電気・ガス・水道が止まった
（回答者：小5保護者）

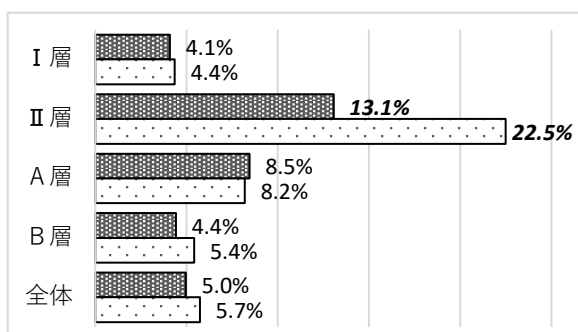


・医療機関を受診できなかった
（回答者：小5保護者）

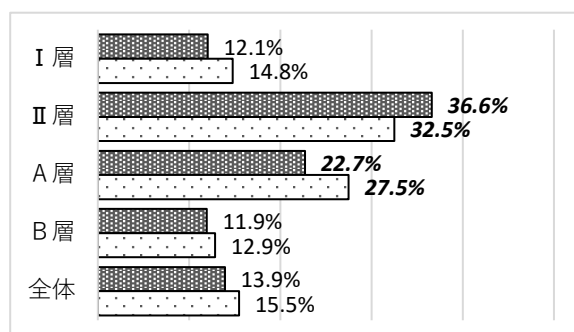


④所得階層や家族形態により「子どもが希望したのに経済的理由によりできなかった経験」がある割合に差が見られる（直近1年間における経験）

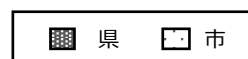
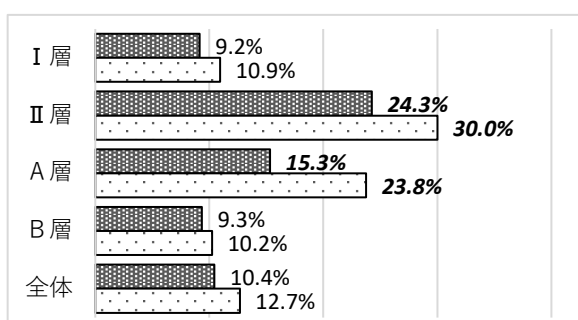
・本や絵本が買えなかった
（回答者：小5保護者）



・お小遣いを渡せなかった
（回答者：中2保護者）



・習い事に通わせられなかった
（回答者：中2保護者）

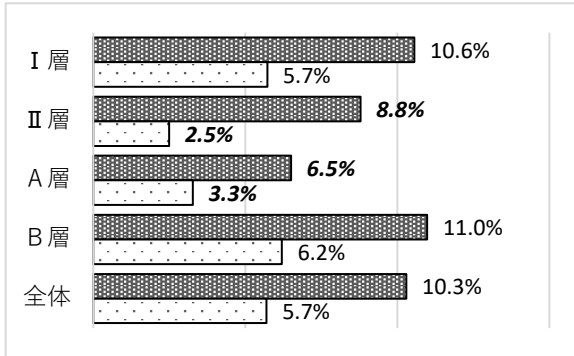


⑤支援制度を知らない世帯が一定数存在する

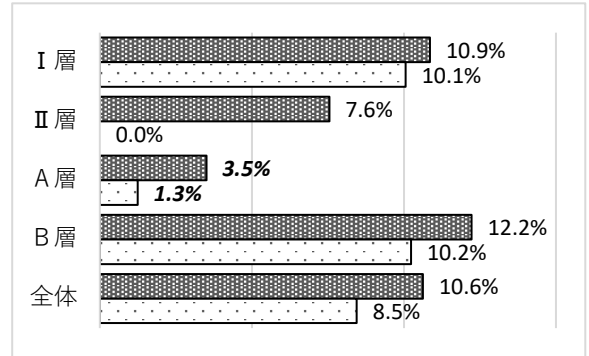
【各制度を知らない割合】



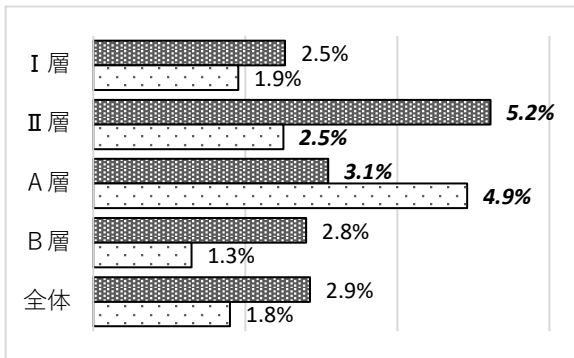
・就学援助費（回答者：小5保護者）



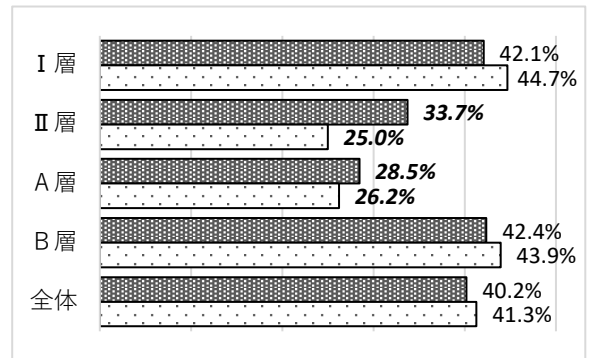
・児童扶養手当（回答者：中2保護者）



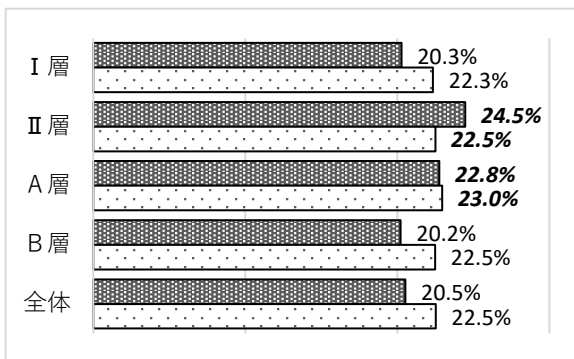
・生活保護（回答者：小5保護者）



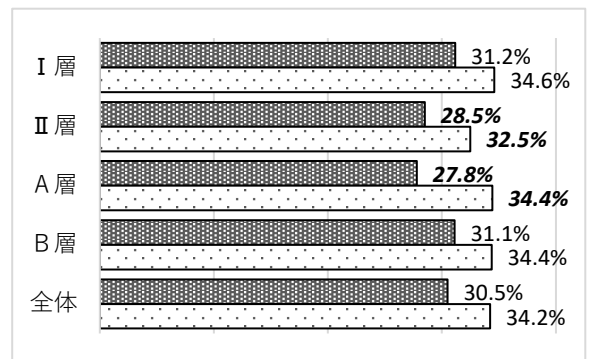
・行政や社会福祉協議会からの貸付金（回答者：小5保護者）



・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー（回答者：小5保護者）



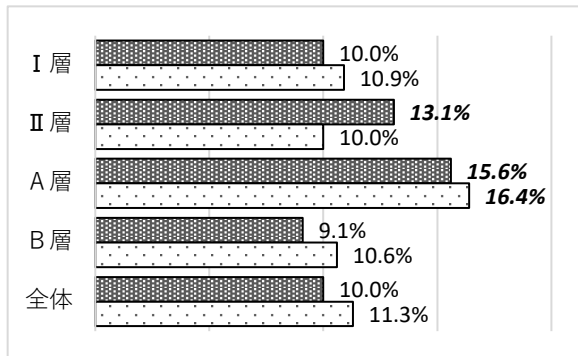
・高等学校等就学支援金（回答者：小5保護者）



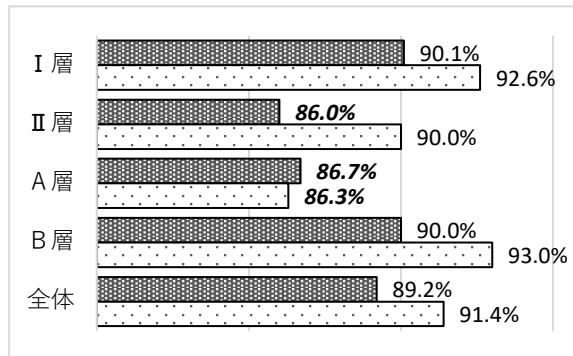
(2) 生活環境

①所得階層や家族形態により規則的な生活習慣に差が見られる

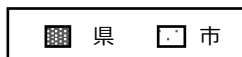
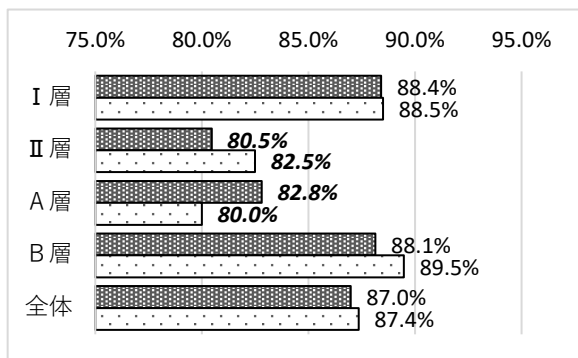
・子どもだけで夜間に留守番をさせることがある。(回答者：小5保護者)



・平日、ほぼ、どちらかと言えば同じ時刻に起きる(回答者：中2子ども)

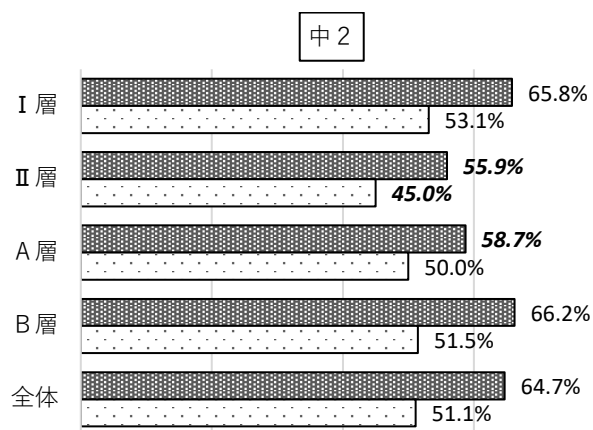
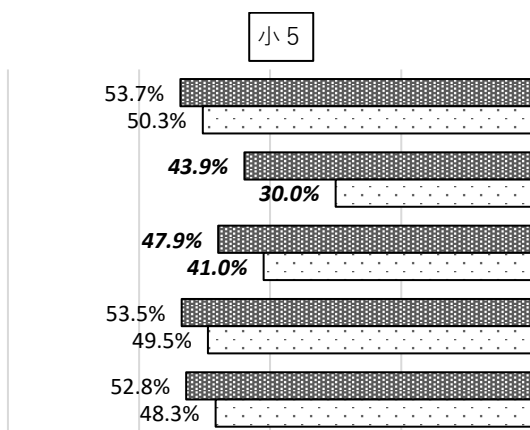


・ほぼ毎日朝食を食べる(回答者：中2子ども)



・歯磨きを毎食後する

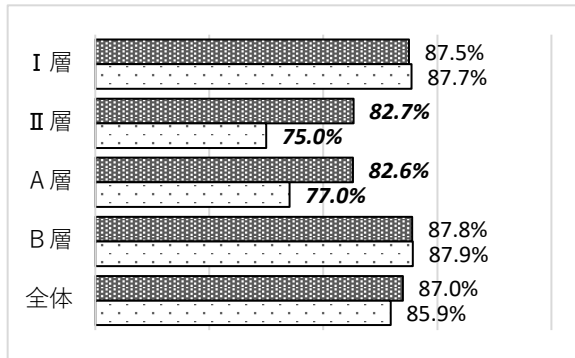
※「歯磨きを毎食後する」割合は、県全体と比較すると全ての層で低い。
(回答者；いずれも子ども)



②規則的な生活習慣が身につけていないことにより子どもの健康や学力に差が見られる

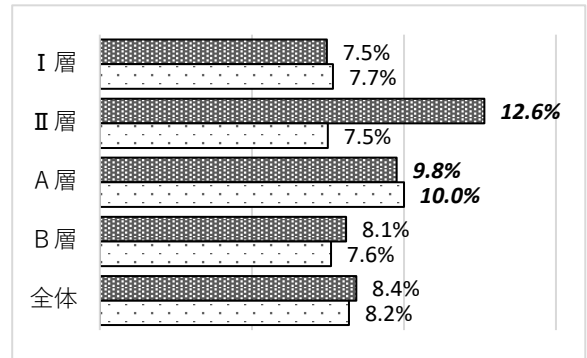
・ <子どもの健康について>

健康である (回答者：小5保護者)

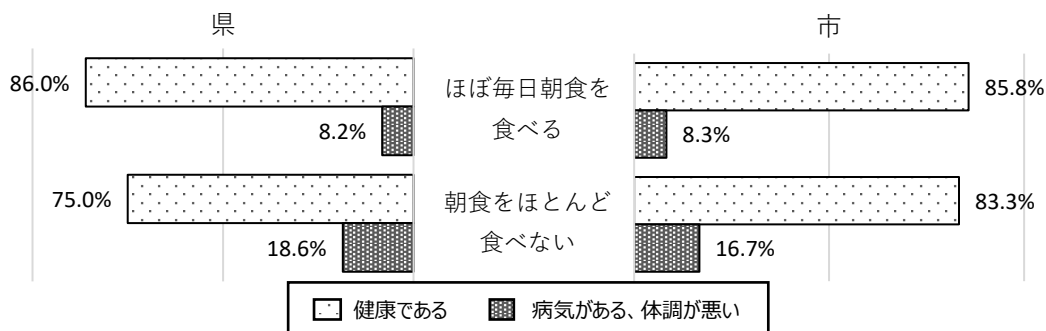


・ むし歯があるが治療していない

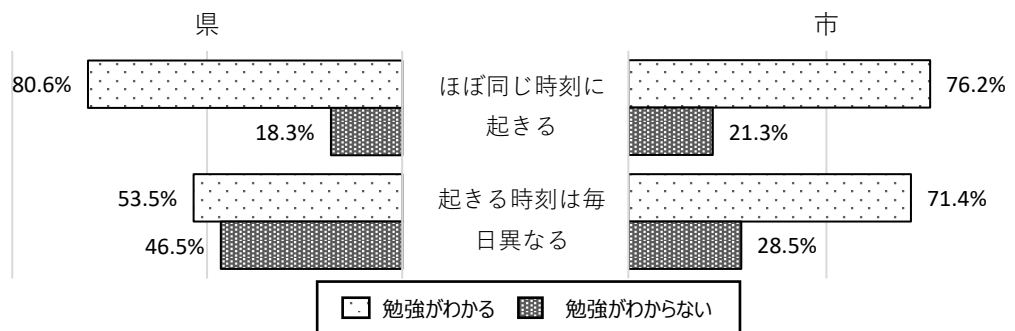
(回答者：中2子ども)



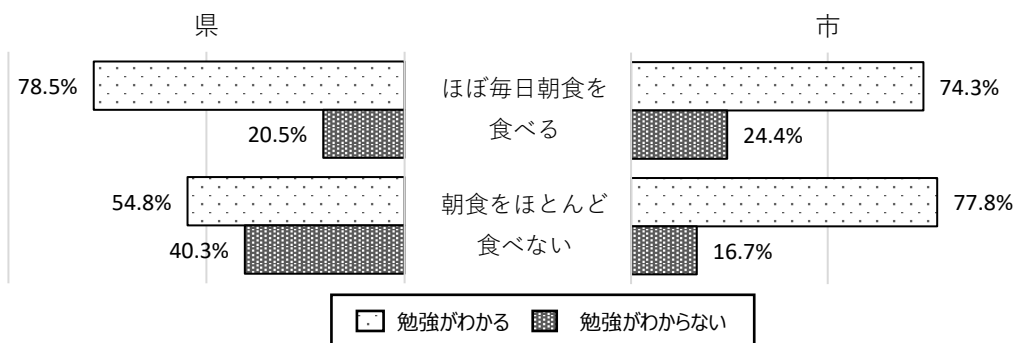
・ 朝食を食べる頻度 (回答者：中2子ども) と子どもの健康状態 (回答者：中2保護者) の関係



・ 平日の起床時刻と子どもの学力の関係 (回答者：いずれも中2子ども)



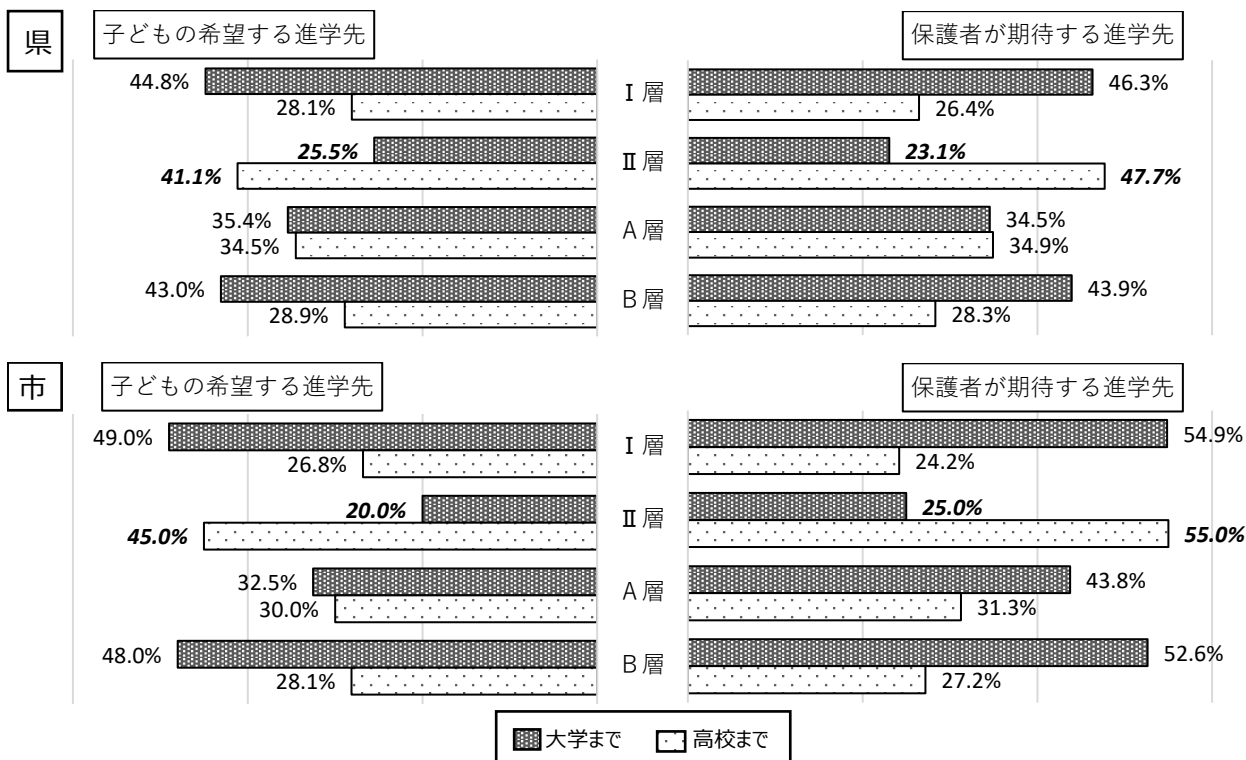
・ 朝食を取る頻度と子どもの学力の関係 (回答者：いずれも中2子ども)



(3) 教育環境

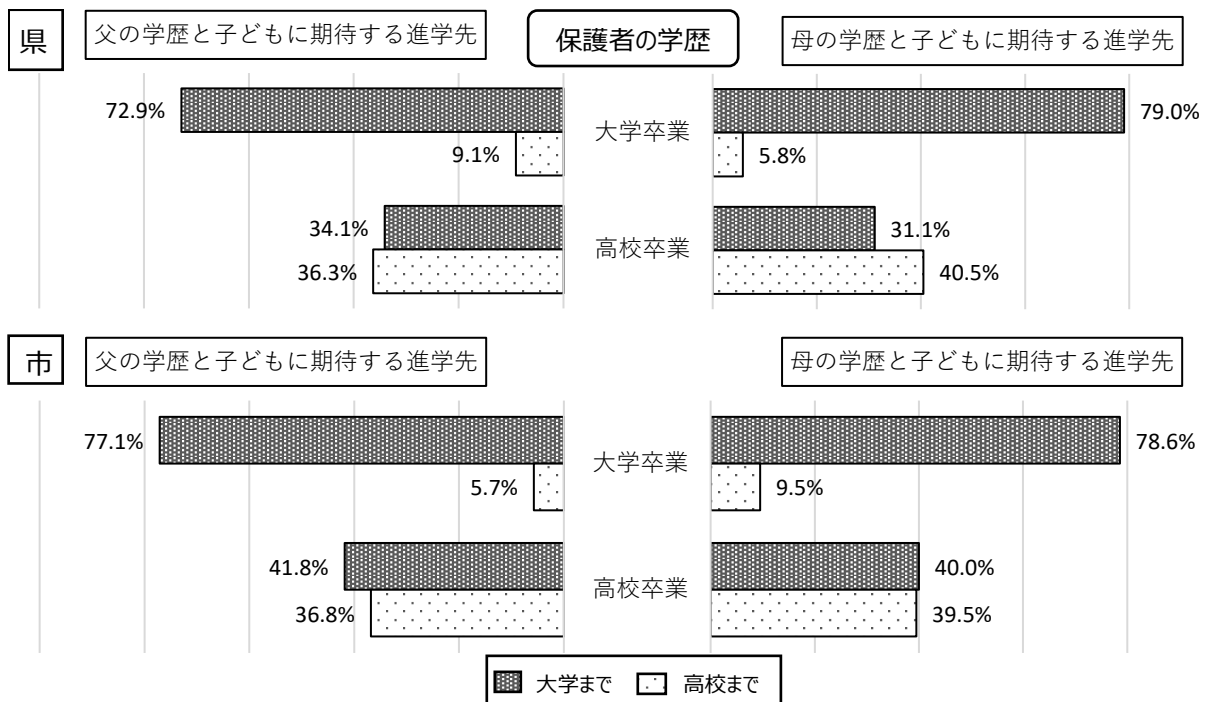
①家庭環境により子どもが希望する学校段階（学歴）に影響が見られる

・子どもが進学を希望する学校段階は、所得階層や家族形態により割合に差が生じており、保護者が期待する子どもの学校段階とほぼ一致している。（回答者：いずれも中2）



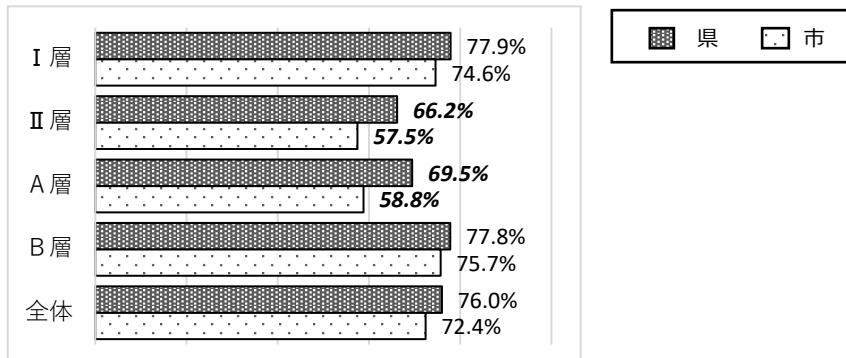
・保護者の学歴が大学卒業以上の場合には子どもに対しても大学以上の進学を期待し、保護者の学歴が高校卒業であれば子どもに対しても高校までを期待する割合が増える。

(回答者：中2保護者)

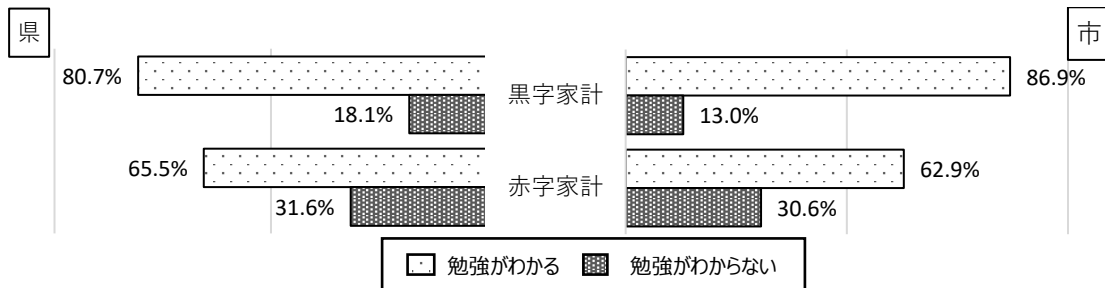


②所得階層や家族形態により子どもの学習機会や理解度に差が見られる

- ・学校での勉強内容がわかる（回答者：中2子ども）

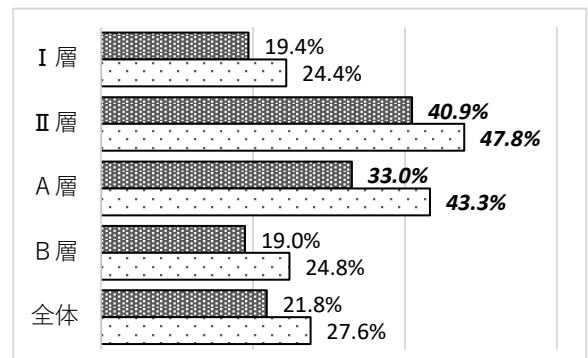
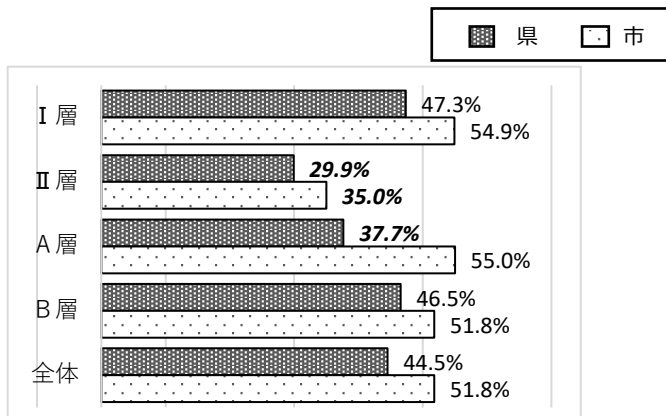


- ・家計の状況（回答者：中2保護者）と子どもの学力（回答者：中2子ども）の関係

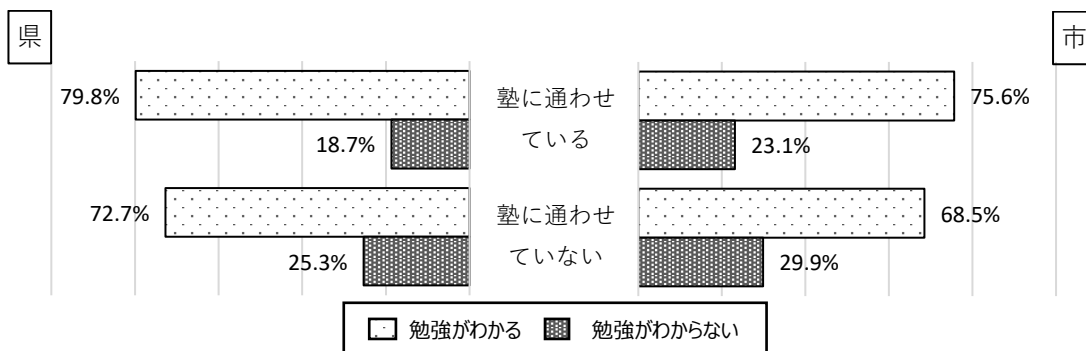


- ・子どもを塾に通わせている
（回答者：中2保護者）

※子どもを塾に通わせていない理由が「月謝等の負担が難しい」である割合
（回答者：中2保護者）

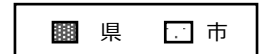


- ・塾などの学校外教育（回答者：中2保護者）と子どもの学力（回答者：中2子ども）の関係



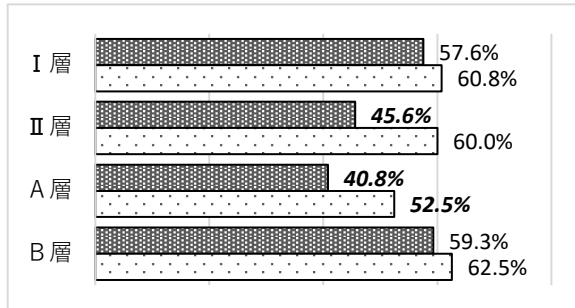
(4) 社会環境

①所得階層や家族形態により必要とする経済支援等の割合に差が見られる

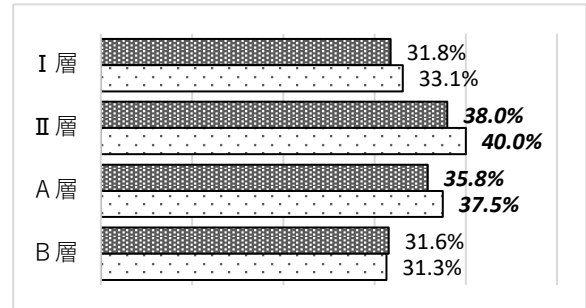


【子どもを育てていくうえで必要と思う支援】

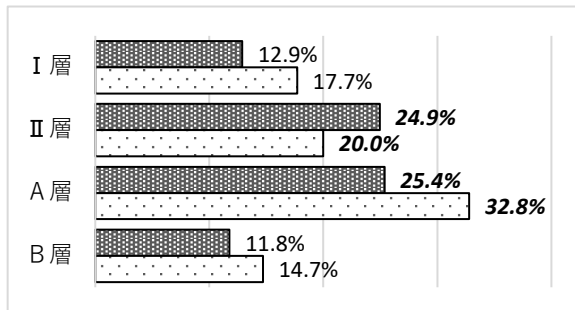
- ・ 保育料や学校費用の軽減
(回答者：小5保護者)



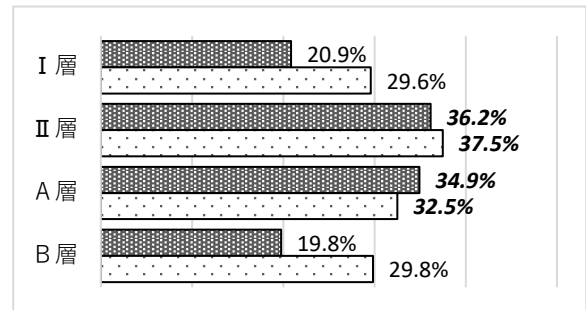
- ・ 奨学金の充実 (回答者：中2保護者)



- ・ 住宅支援 (回答者：小5保護者)

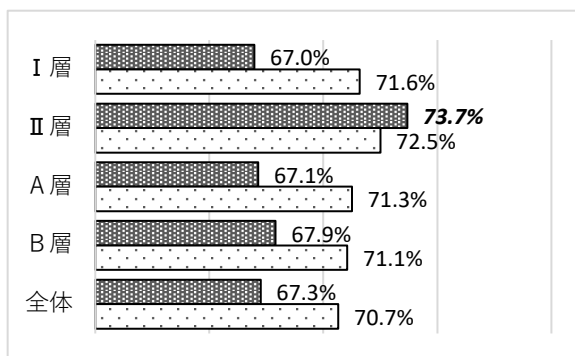


- ・ 就学援助の拡充 (回答者：中2保護者)

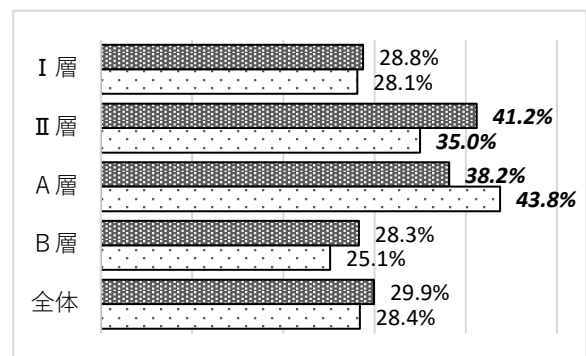


【子どもを参加させたい支援】

- ・ 無料の学習塾 (回答者：中2保護者)

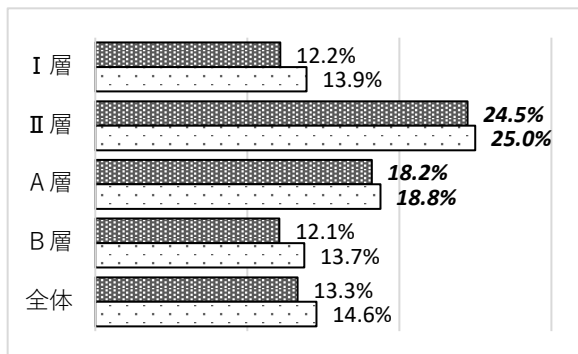


- ・ 子ども食堂 (回答者：中2保護者)

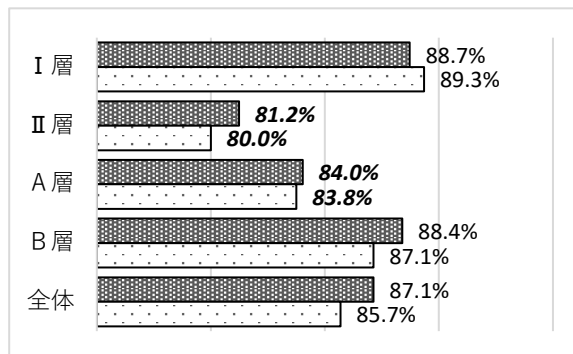


②所得階層や家族形態により社会的孤立（社会関係の希薄化）に差が生じている

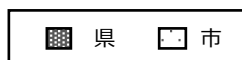
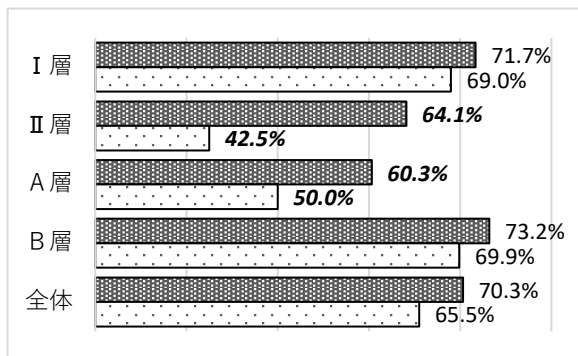
- ・自分だけでは解決することが難しい
大きな悩みを抱えている
(回答者：中2保護者)



- ・悩みや子育ての相談などをできる人がいる
(回答者：中2保護者)



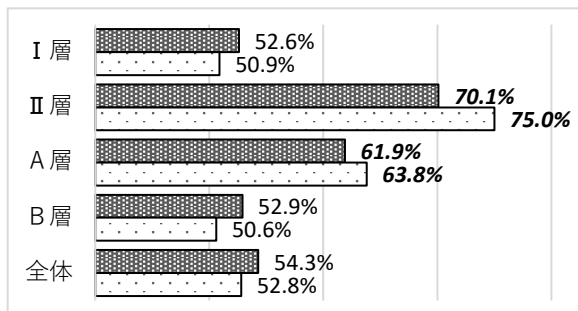
- ・地域行事に参加している (回答者：中2保護者)



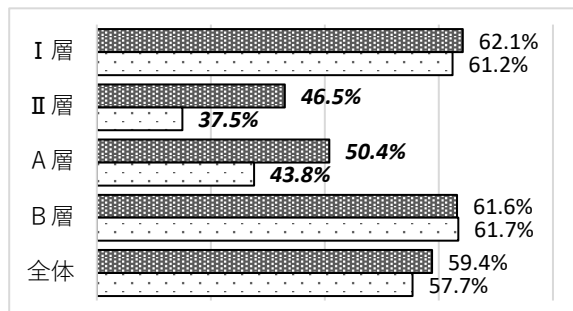
(5) 心身への影響

①所得階層や家族形態により保護者の気持ちの不安定さや体調に差が見られる

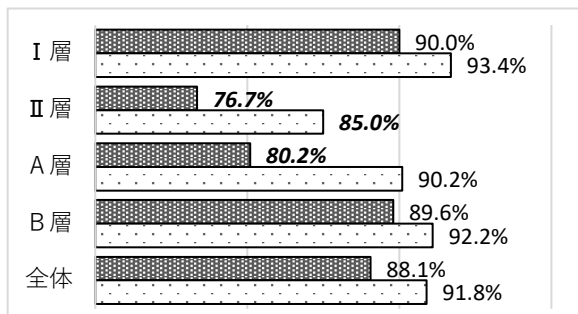
・日々の生活で不安やイライラを感じる
(回答者：中2保護者)



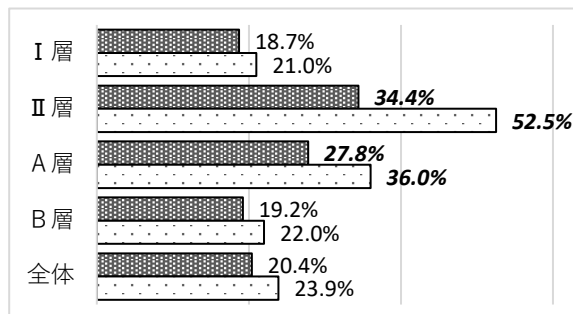
・将来に希望をもっている
(回答者：中2保護者)



・幸せだと思う (回答者：小5保護者)

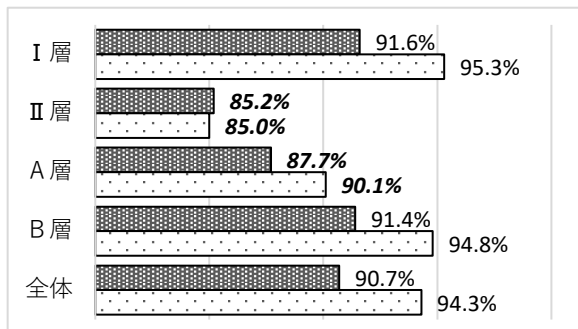


・病気がある、体調が悪い
(回答者：小5保護者)

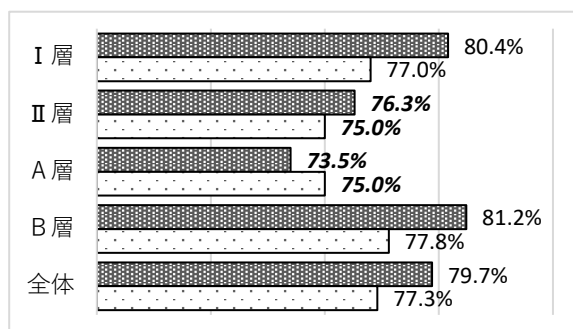


②所得階層や家族形態により子どもの向上心やチャレンジ精神、自己肯定感に差が見られる

・勉強やスポーツ等がんばりたいと思う
(回答者：小5子ども)



・何かに挑戦したいと思う
(回答者：中2子ども)



・自分には良いところがあると思う
(回答者：小5子ども)

